

ARIBの動き

「DTV Workshop」 - DTTB in Progress- (11月16日(水)) 開催のお知らせ
(2005年国際放送機器展(Inter BEE 2005)における海外来場者向けセミナー)

当会のデジタル放送技術普及部会 (DiBEG) は、11月16日(水)~18日(金)に幕張メッセで開催される2005年国際放送機器展 (Inter BEE 2005) において、昨年引き続き以下の要領による海外来場者向け英語セミナーを後援します。

海外来場者にご参加を呼びかけて下さいますようお願い申し上げます。

- 1 日時： 平成16年11月16日 (水) 午後1時から5時まで
- 2 会場： 日本コンベンションセンター (幕張メッセ) 国際会議場2階 201号室
- 3 主催： 社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)
- 4 後援： 社団法人電波産業会デジタル放送技術普及部会(DiBEG in ARIB)

5 セミナー名称： 「DTV Workshop」 - DTTB in Progress-

6 セミナーの趣旨：

海外来場者向けセミナーを開催し、海外に我が国のデジタル放送技術・製品を紹介するとともに、我が国の地上デジタル放送方式(ISDB-T)の普及を図る。

7 テーマ： DTTB in Progress

8 プログラム

(1) 講演

講師： Yasuo Takahashi (DiBEG)
Kenji Suzuki (Japan Broadcasting Corporation/NHK)
Takeshi Sawada (TOSHIBA)
Masayuki Takada (Japan Broadcasting Corporation/NHK)

(2) パネルディスカッション

テーマ：“Mobile and Handheld Broadcasting”

プレゼンター：

Takao Shimizu (Tokyo Broadcasting System)
Kim Sang Hun (KBS-BTRI)
Clive Morton (Broadcast Australia)
Nagisa Oyoshi (Tokyo Broadcasting System)

(携帯端末向けデジタル放送がテーマ。オーストラリア、韓国及び日本のパネリスト)

(1)、(2)司会： Shigeru Yamazaki (TOSHIBA)

9 定員： 100名程度 (事前登録不要、無料)

* 詳細は、DiBEGのホームページ< <http://www.dibeg.org/dtvwork.htm> > を参照ください。
また、Inter BEE 2005のホームページ < <http://bee.jesa.or.jp/> > (日本語) 及び< http://bee.jesa.or.jp/en/index_1.html > (英語) の「同時開催」のページを参照ください。

第111回業務委員会が開催される

第111回業務委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成17年10月12日(水) 午後2時から3時50分まで

2 場所 当会第3会議室

3 議事概要

(1) 事務局から、次の事項について報告があった。

ア 平成18年度の税制改正要望内容

イ アナログ周波数変更対策業務 (一般受信者向けの受信対策の状況、送信設備に係る給付業務の状況及び平成17年10月中に受信対策を開始する地域)

ウ 特定周波数終了対策業務の今年度の給付金申請件数、給付金の交付金額等

(2) 事務局から、最近の当会の活動状況について説明があった。

(3) 次回の業務委員会は、平成17年11月9日(水)午後2時から開催することとなった。

電気通信／電波行政の動き

950MHz帯電子タグシステムの普及促進に向けて 情報通信審議会からの一部答申

総務省は、平成17年10月12日、情報通信審議会から、「高出力型950MHz帯パッシブタグシステムの高度化に必要な技術的条件及び低出力型950MHz帯パッシブタグシステムの技術的条件」について一部答申を受けました。総務省は、この一部答申を踏まえ、これらの950MHz帯パッシブタグシステムについて、速やかに技術基準の策定等を進めて行く予定です。

以下にその要旨を紹介します。

なお、詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051012_7.html>を参照ください。

1 背景

電子タグシステムは、今後のユビキタスネットワーク社会における基盤的ツールとして、幅広い分野での利活用が期待されています。

950MHz帯を使用する電子タグシステムは、これまで使われてきた周波数帯（135kHz以下、13.56MHz帯、2.45GHz帯）の電子タグシステムに比べて長い通信距離を実現できます。このうち、高出力型950MHz帯パッシブタグシステムについては、平成16年12月の情報通信審議会の一部答申を受けて、平成17年4月に制度化されたところです。

平成17年10月12日、(1)高出力型パッシブタグシステムの高度化及び(2)低出力型パッシブタグシステム（免許不要タイプを想定）の導入に向け、同審議会から、「高出力型950MHz帯パッシブタグシステムの高度化に必要な技術的条件及び低出力型950MHz帯パッシブタグシステムの技術的条件」について一部答申を受けました。

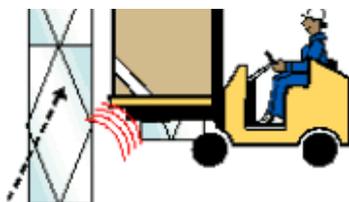
これにより、今後、電子タグシステムの一層の普及促進が期待されます。

2 概要

- (1) 高出力型950MHz帯パッシブタグシステムについて、周波数の有効利用を可能とする共用化技術（キャリアセンス、送信時間制御）を導入。
- (2) スーパーマーケットのバックヤードなどでの利用が期待され、免許不要タイプが想定される低出力型950MHz帯パッシブタグシステムについて、周波数や電力等の技術的条件を新たに策定。

950MHz帯パッシブタグシステムの利用例





リーダ/ライタアンテナ

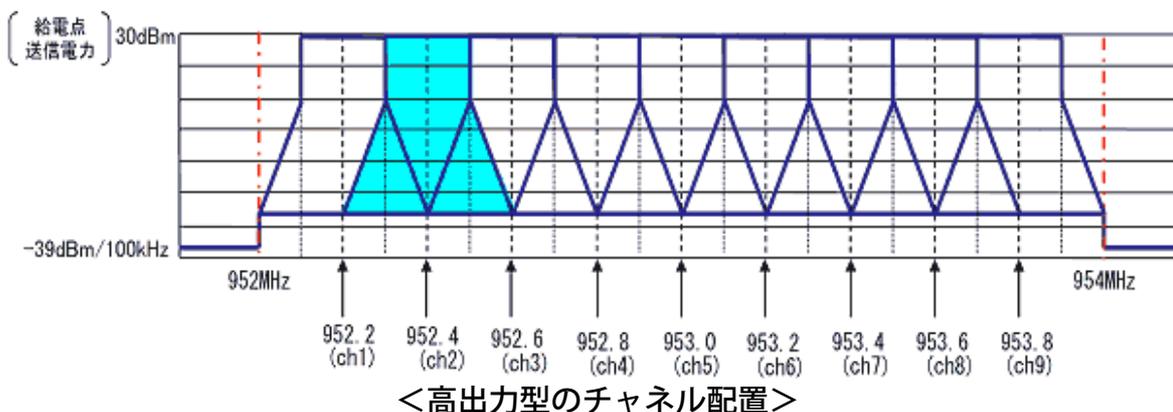


店舗のバックヤードでの利用

3 技術的条件

(1) 高出力型950MHz帯パッシブタグシステムの高度化に必要な技術的条件

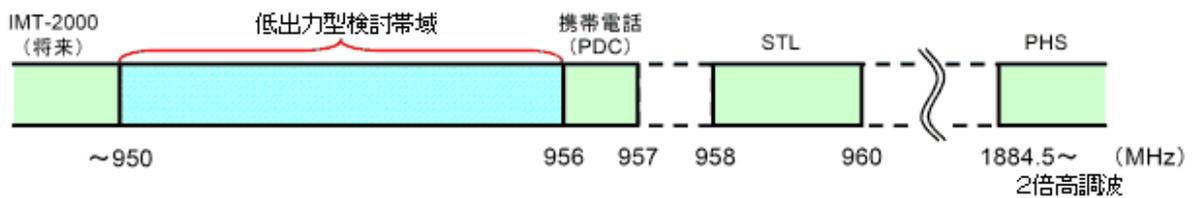
- 1) 共用化技術を具備していないパッシブタグシステムにおいては、同一周波数帯を使用するリーダ/ライタ (R/W) 同士の干渉、及び複数R/Wからの電波によるタグ側での干渉が起こる恐れ。この影響を回避・軽減するため、共用化技術として、キャリアセンス及び送信時間制御を導入。
- 2) キャリアセンスを行うために、952MHz~954MHzを200kHz幅の単位無線チャンネルで分割。ただし、通信速度の高速化にも対応できるよう、単位無線チャンネルを束ねての使用も可。



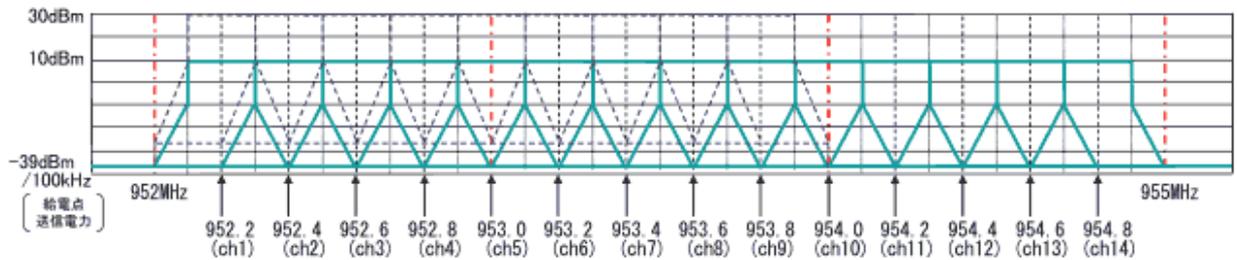
- 3) 200程度のタグを一括して読み取ることを想定して必要な送信時間を設定。また、チャンネルの明け渡しが行える必要十分な時間として停止時間を設定。

(2) 低出力型950MHz帯パッシブタグシステムの技術的条件

- 1) 小売店舗や大手スーパーのバックヤード及び工場のラインなど、現在ハンディ型バーコードリーダが使われているような幅広い分野において使われることに加え、一般ユーザが携帯電話などと融合した端末を使用することも想定。通信距離としては50cm程度。
- 2) 隣接する周波数帯を使用するPDC (既存) やIMT-2000 (将来) 等に干渉を与えないよう使用周波数帯域、送信出力やスプリアス領域発射の強度を設定。
 - 周波数帯は高出力型より広い952MHz~955MHz (3MHz)
 - 空中線電力は、免許不要の特定小電力無線局レベルである10mW



- 3) 高出力型と同様、キャリアセンスによる共用化技術を導入するために、952MHz～955MHzを200kHz幅の単無線チャンネルで分割。ただし、想定される用途に鑑み、同時に使用できるチャンネル数は1。



<低出力型のチャンネル配置>

- 4) 利用形態を踏まえ、より即答性が求められる高出力型の送信を低出力型の送信に対して優先させる観点から、送信時間及び停止時間を設定。

<高出力型と低出力型の主な技術的条件>

	低出力型	高出力型
周波数帯	952～955MHz	952～954MHz
占有周波数帯幅	200kHz	(200×n) kHz
空中線電力	10mW以下	1W以下
空中線電力の許容偏差	上限20%、下限80%	上限20%、下限80%
空中線利得	3dBi以下	6dBi以下
キャリアセンス帯域	200kHz	(200×n) kHz
キャリアセンスレベル	-64dBm	-74dBm
キャリアセンス時間	10ms	5ms
送信時間	最大1秒	最大4秒
停止時間	100ms以上	50ms以上

(斜字体が新たな技術的条件。n：1～9までの整数)